

●緑区役所の主な取組

緑区役所では、平成29年度の緑区政運営方針において、「次世代につなぐ みんなにやさしいまち～「ふるさと みどり」」を基本目標とし、その達成に向けた施策として、「安全・安心なまち」、「いきいき暮らせるまち」、「みどりの魅力あふれるまち」の3つの柱を掲げました。中でも、2019年10月の緑区制50周年に向けて、子どもたちや地域の新たな担い手をはじめとする「次世代」のための事業に広く取り組みました。第3期みどりのわ・ささえ愛プランについても、区政運営方針に位置づけて進めています。今年度の主な新規事業を中心に実施状況を紹介します。

詳しくは区役所ホームページでも公表しています。

緑区政運営方針

検索

1 安全・安心なまち

(1) 災害に強いまちづくり・暮らしの衛生の推進

小学校での減災マップ作りワークショップ（9校）や中学校での防災講演会（1校）等、子どもたちへも防災・減災啓発を行いました。また、地域防災拠点等でペットの防災対策の普及啓発（7回）や「犬のしつけ方教室」も実施しました。



▲減災マップづくりワークショップ

(2) 安全・安心な環境づくり

バス通りの歩行者空間等整備（三保地区等）や通学路の緊急安全対策、飛び出し防止路面標識シート設置、交通ルールの啓発活動、公園の地域防災拠点の案内板更新等を行いました。また、市立保育所（全4園）にICカードによる門扉開錠システムを導入し、セキュリティ及び利便性の向上と応答対応業務の負担軽減（改善）を図りました。

2 いきいき暮らせるまち

(1) 第3期「みどりのわ・ささえ愛プラン」の推進

第3期計画の2年目として、区の推進委員会と各地区別計画の推進委員会を2回ずつ開催しながら、区役所・区社会福祉協議会・地域ケアプラザ等が一体となって、区域計画で掲げた「障がい児・障がい者に関する取組」などの6つの重点テーマに関連する新しい取組や関連団体等との連携の強化、地区支援チームによる各地区の地域主体による取組の支援を進めました。また、カフェスタイルのプランPRイベント「みどりのわ・Café」を開催（2回（東本郷・霧が丘）・計約350人参加）するなど、昨年度に引き続き、広報活動も展開しました。



▲計画PR動画はこちらから

(2) 妊娠期から学齢期までの切れ目のない子ども・子育て支援と次世代育成

今年度は、新たに就学前児童の預け先に関する説明会・個別相談会を実施しました。（4回・337人参加）また、よこはま北部ユースプラザ職員によるひきこもり等の専門相談も5月から月2回実施しています。乳幼児連れでの外出を促進するために、授乳・調乳・おむつ替え等ができる「赤ちゃんの駅」として地域に開放する取組も新たに民間4園で開始し、合計17園に拡充されました。（市立4園、民間13園）

(3) 地域における青少年の育成（子どもたちの地域社会への参画と体験の場づくり）

緑区制50周年に向けて、「夢みどり50プラン」（区制40周年を記念して区内の小中学生が描いた10年後の緑区の姿）の実現をめざすために、区内小中学校の代表児童・生徒が集まる「夢みどりリーダー会議」（23校×2人）を、今年度も8月に開催しました。同じく、8月には、緑区役所、関係機関、区内企業が参画し、「子どもアドベンチャー2017」緑区会場を実施しました。（参加者延べ2607人）



▲子どもアドベンチャー2017

(4) 高齢者・障がい者施策の推進

医療と介護の連携強化等、日常生活圏域ごとの包括的な支援・サービス提供体制「地域包括ケアシステム」の構築に向けた緑区行動指針を作成しました。

(詳しくは P84・コラム1 参照) また、その検討・推進並びに次期緑区地域福祉保健計画の策定に向けて、最新の国勢調査（H27）のデータをもとに、区内各地区の人口推移や年齢構成、その他各種統計に加え、公共施設や地域活動の分布、地形の高低、公共交通機関等の状況等、視覚的な地理的要因等も含めて、総合的にまとめたデータ集「緑区地区別暮らしのデータ集」を作成しました。

障がい者通所施設の連絡会や自主製品の共同販売、意見交換会を実施し、障がい者の社会参加の機会拡大を図るとともに、広報よこはま緑区版 12 月号では、区内障がい者作業所を紹介する特集記事を掲載しました。



▲緑区地区別暮らしのデータ集

(5) 生涯にわたる健康づくりの推進

「食」を通じた健康づくりを推進するために、今年度新たに導入した栄養診断システムを活用した体験型食育ミニ講座を学校や地域のイベントの他、企業等とも連携して実施しました。

「ラグビーワールドカップ 2019」及び「東京 2020 オリンピック・パラリンピック」を緑区から盛り上げる取組として、ウィルチェアラグビーやスポーツクライミングの体験イベントを開催しました。



▲ウィルチェアラグビー

(6) 暮らしのなかのセーフティネット

生活困窮者の自立に向けた支援として、区社会福祉協議会や関係部署と連携して、地域の学習支援活動団体等との連絡会を開催するとともに、市民向けの学習支援ボランティア養成講座（受講生 18 人）や区内大学への出張養成講座（受講生 53 人）を実施しました。また、寄り添い型学習支援事業の卒業生や生活困窮世帯の高校生を対象に、就学を継続しつつ、将来の自立に向けた講座を開催すると共に、居場所づくりを実施しました。

3 みどりの魅力あふれるまち

(1) 区制 50 周年プロジェクト

平成 31 年 10 月の緑区制 50 周年に向けて、10 月には緑区制 50 周年記念事業実行委員会を発足しました。また、3 月には緑区制 50 周年ロゴマーク等プロモーションツールを策定します。

区のフェイスブックで区民の皆様にご協力頂いた写真を使用した「1000 日カウントダウン」も継続中です。平成 30 年 3 月 31 日時点であと 548 日。既に 500 組近い区民の皆様が登場しています。



▲全国都市緑化よこはまフェア・里山ガーデンで撮影した小野崎緑区長

(2) 第 33 回 全国都市緑化よこはまフェア開催

同イベントの開催にあわせて、5 月に里山ガーデン会場で緑区を PR する「緑区民 DAY」を開催し、多くの市民の皆様の来場を頂きました。あわせて、鴨居原市民の森を会場とした PR イベント「森のサーカス」も実施（322 人参加）しました。また、里山ガーデンとズーラシアを会場に小学生向けフォトワークショップを実施し、作品を長津田駅に展示しました。

(3) みどりの魅力を活かした地域活性化

区の魅力発信と地域活性化を目的として、今年も緑新栄会を会場に「スマートイルミネーションみどり～なかやま幻影ウェディング」を開催（9 月・2 日間で延べ約 6,500 人来場）しました。

区内に残る歴史的・自然的・文化的地域資源である「緑区遺産」は新たに 9 件（「横浜線 岩川橋梁」、「神明谷戸 お滝様」ほか）登録され、あわせて 18 件となりました。

(4) 地域力の推進と市民活動の支援

地域の空き家や空き店舗等の活用した地域活動を支援する事業では、地元企業の協力により、地域の新たな活動拠点開設につながりました（三保地区）。他にも、地区センター・地域ケアプラザ等の区民利用施設間連携会議（2 回）、地域活動交流イベントの実施等、地域活動の推進に向けた取組を実施しました。